



START 事業の背景

展示会での出会いから、 未開拓の医療分野へ挑戦

東京の展示会に出展した際、医療機器製造会社から医療滅菌箱の製作を依頼された。しかし当時は医療分野での知識は皆無。その時点で回答は難しかったため、一度保留とした。その後医療業界についての勉強を重ね、医療滅菌箱の開発を開始。先方からは「工具箱の中に劣化しない器具を留めるストッパーを入れて欲しい」と依頼を受け、器具に合わせてカットできるシリコンの器具を製作することに。そこでより複雑な作業が可能な機械が必要となり、ものづくり補助金を活用した。



ACTION 取組の内容

機械化で 品質を統一

新たなベンディングマシンを導入したことにより、工具箱の品質が安定するようになった。以前は暑い日だと油の温度が高くなるため油が柔らかくなってしまい、寒い日だと温度が低く油が硬くなってしまったため、人の手を介入させる必要があった。機械を導入したことで油の温度を一定にし、安定した品質で製造できるようになった。さらにオーダーメイドでの医療箱製造を行う会社は少ないので、病院や大学など医療関係者からの需要は高いと推測している。



ABOUT 私たちについて

溶接の腕が立つ職人。 地場から全国へ

1959(昭和34)年、石油ストーブタンクの溶接工場として創業。初代中村権三郎氏は、溶接のために配給されていた真鍮を約半分の量で綺麗に仕上げると評判の溶接屋だった。その後、1970(昭和45)年にはナカゴン工業株式会社を設立。当時としては珍しく、地元の間屋さんとの取引だけでなく、自ら東京へ営業に行き、販路を拡大していった。現在は、工作機械につける「工具箱」の製造とOEM製造の2つが主力。特注品で工具箱を作る全国でも数少ない業者のひとつでもある。



FUTURE 今後の展開

小ロットと配送までの一貫体制で 顧客のニーズに応えたい

私たちは常に他社ができない分野を追求し続ける会社でありたいと考えている。当社は大手企業から小ロットでの納品を求められることも多い。それは小ロットでは請け負ってくれる下請けの会社が少ないから。数が少ない仕事はまとまった売上にはならないが、1個あたりの単価は高い。加えて、

製造から配送まで一貫して請け負うことで会社として価値を高めていきたいと思っている。小ロット生産で配送までしてくれる会社は少ないので、感謝されることも多い。今後は自社製品の販路も広げながら、小ロット生産と一貫した体制で、顧客の需要に柔軟に対応していきたい。

昔からお客さんの「こうした加工できないか？」に対応してきました。今後もその姿勢は崩さないようにしたいです。



代表取締役社長
中村 敏氏

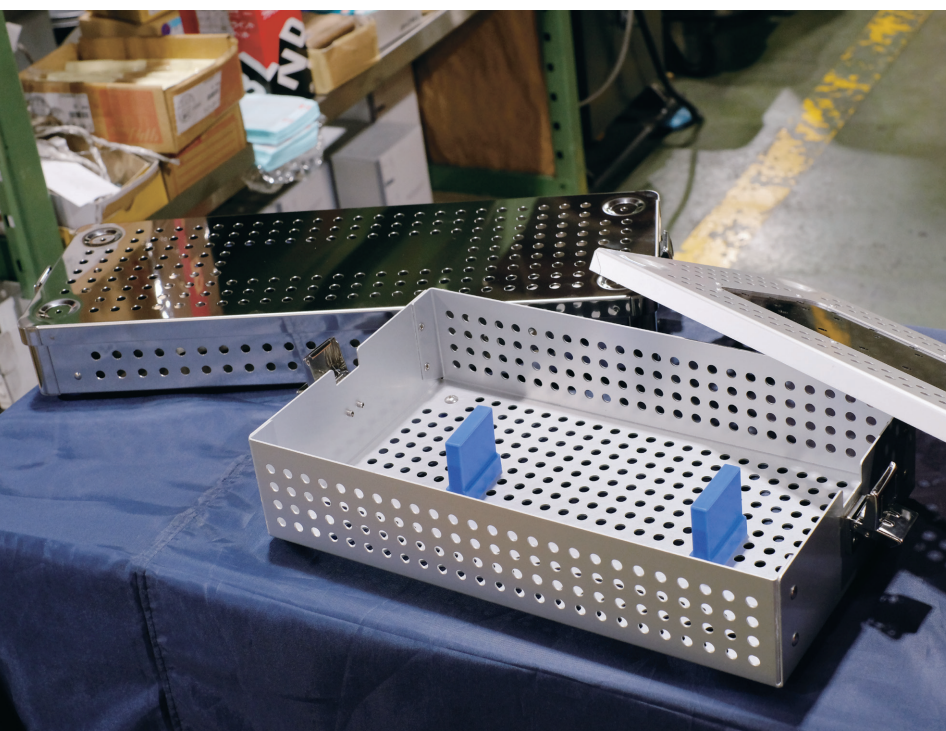
CASE

2

平成24年度

中村精工株式会社

機械の工具箱から、医療機器を入れる工具箱へ



Info

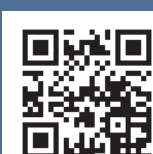
■ 金属製品製造業

中村精工株式会社

住 所 新潟県三条市中新 32 番 26 号

T E L 0256-38-1631

U R L <http://nakamuraseiko.co.jp>



会社 HP